

ライオン石鹼争議解決報告

全口の女誼団体も同志諸君

一九三三年六月二十五日、首切、酷使反対、諸待遇改善等拾九ヶ項目の要求を揚中、起した。我等ライオン石鹼従業員団は、諸君の甚大なる支援の下に約三週間の争議の結果、勝利に解決し茲に諸君の前に報告し得ることを喜ぶものである。

然し乍ら争議の跡を顧むるとき、將來の争議のため、諸君の批判を仰ぎ且つ自己批判すべき幾多あるを無視することは出来まい。だが今日はそれと別として、よりよへず、而る参考にして経過の大要を報告することに致します。

一、争議に至る諸情勢
イ、資本家は社長小林富次郎、ライオンは丹がきと同一資本系、資本金五十萬円當時年五分の配当

ロ、労働条件は花王三輪従業員並、石鹼等と比較して約二割劣悪、八層社の労働政策は、キリスト教による「家族主義」之れは高結の専任社員に置いて、偽福と圧迫を加へつ、ある。ためにカナリ所謂家族主義は浸透して、労働者側は、化学生産界の二として、不熟練工で足れる所の不利にあり、然るに従来の制度の上に、前記偽福政策がありなるとして、外部からの侵入困難多し。

ホ、然し乍ら、根本問題である労働条件の劣悪は、永き而して根絶さざる限り、全従業員は内訌を起して居る。故に殆ど、自然発生的にも、労働組合の必要を全員が感してあつた。ために青年分子を中心として、従業員組合組織の準備が進められて居た。勿論外部力下ある。江東地方工場聯絡委員会の目的意識的な協力があつた。

二、争議の直接原因と引揚中当日の情勢

イ、斯かる情勢は必然に鋭く争議を起す。即ち六月二十五日、組合準備會の中心分子に對して、會社は轉勤を命じ、休日を解雇を申渡した。

ロ、斯かる不意は、前日から全員の心の中を震動し、朝から工聯から三名の代表が工場へ派遣されて居た。従業員大會が開かれ、青年宿舎に引き揚げ、要求するか作られた男女各五名の代表者が直従業員へ行つた頃は全従業員が参加して居た。ハ、前が監督寮の干渉加ふるに至り、大抵争いが始まり、いよいよ江東地方工聯事務所を引き揚げたときは、僅かに二十五名に過ぎなかつた。他の約六十名は、会社の偽福と監督寮の圧迫に耐へて仕舞ひに居た。

三、争議の経過

イ、引揚中と同時に會社は従業員の家々に全社員と飲して「お宅の子女は赤いゴロ太、まじりかまして行かぬ」となると逆宣傳して廻つた。會社は争いやか終るまで、終つてから此の種の宣傳は止めない。また此のよう宣傳は、此の工場の従業員等、家々に叩崩しの効果があつた。こゝに續いては、この報告が事実だ。